

令和3年6月24日
特定非営利活動法人 千葉自然学校

NPO 法人千葉自然学校 令和2年度 事業報告

はじめに

理事長 久保田康雄

ここ1年余り、新型コロナウイルスの猛威は衰えることなく、様々なところに影響を及ぼしています。このような中で、理事・会員の皆様方には、NPO 法人千葉自然学校の運営にご尽力いただき、感謝申し上げます。令和3年5月も終わろうとしていますが、現在の NPO 法人千葉自然学校の状況をお伝えします。

NPO 法人千葉自然学校の事業は大きく3つに分かれています。①千葉県立君津亀山青少年自然の家、南房総市大房岬自然の家等での「受け入れ事業」②企業や行政から依頼される「受託事業」③千葉自然学校が主催して実施している「主催事業」です。

主に学校団体やスポーツ・文化団体が利用する「受け入れ事業」は、この1年、ほとんどの団体でキャンセルが続いている状態です。君津亀山青少年自然の家では、宿泊利用者が前年度の約15%に落ちています。大房岬自然の家でも、前年度比約22%に落ちています。2番目の「受託事業」も企業や行政からの依頼が減り、売り上げが前年度比約35%に落ちています。

一方、3番目の「主催事業」では、現在、千葉県の都市部を中心とした地区で蔓延防止等重点措置が施行されている中、感染防止対策を行い、細心の注意を払いながら事業を実施しているところであります。参加定員を半分に抑えること、参加者の事前・事中の健康チェックを行うこと、また3密にならないような運営方法をとることなどの感染防止対策を徹底し、なんとか事業を実施しようとしています。

ゴールデンウイークの「主催事業」では、笠森キャンプ場でファミリーキャンプを、ろくすけで古民家体験プログラムを、亀山湖で子どもたちやファミリーを対象にしたカヌー体験プログラムを実施しました。いずれのプログラムも定員を抑えての実施となりましたが、キャンセル待ちが出るほどの盛況ぶりでした。コロナ禍においては、アウトドアの企画に対するニーズが高いという傾向があります。今後も、夏休みの期間に向け、安全で楽しい事業を企画していきたいと考えています。

さて、そんな状況でありました令和2年度の決算ですが、法人全体でみると、経常収支差額が僅かではありますが、黒字でありました。事業収入が大幅に減少しているところですが、事業数も減っているため支出額も減少しております。また、国の持続化給付金や雇用調整助成金、市の補助金等を申請した結果、前

述のような決算結果となりました。令和3年度は、助成金等が減ることが予想されますので、確実に事業収入を増やしていく必要があり、その準備をしているところであります。

最後に、千葉自然学校のミッションにもありますが、体験活動を通じネットワークをさらに充実し、地域の活性化をめざしてゆきたいと思います。今後とも、理事や会員の皆様方には様々な場面で、ご支援とご協力を賜ることになると思いますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

指定管理 千葉県立君津亀山少年自然の家

令和2年度の利用者数は新型コロナウイルスの影響を大きく受け、8,284名と目標43,400名を大きく下回りました。新型コロナウイルスの影響によるキャンセルは255団体にも上り、宿泊者数で見ると17,182名のキャンセルがありました。コロナ禍により、当施設の一番の利用者であった学校やスポーツ団体などの団体活動は大きく制限を受けることになりました。代わりに、密閉をさけられることもあり、家族単位でのアウトドア活動に世の中の注目が集まりました。こうした状況を受けて、利用者の少ない日程に「自然の家に家族で泊まろう」という家族を対象とした追加の主催事業を11回企画し、内6回実施し、合計269名の参加がありました。

コロナ禍の状況下において、青少年の健全育成を図っていくためには、自然の家での団体利用を受け入れるという従来のスタンスにとどまらず、時代のニーズにあった主催事業などの追加実施や出張事業など臨機応変な対応を行っていく必要があります。今後も新型コロナウイルスは社会に大きな影響を及ぼすと予想されるため、今までの枠組みにとらわれない視点での利用形態や新たな利用者の獲得に努めていきます。

①利用状況 目標達成率 平均 21.6%

■令和2年度実績（令和1年度実績）

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1. 利用団体数 | 207団体（504団体） |
| 2. 利用者数《延べ》 | 8,284名（35,235名） |
| 3. 宿泊者数《人/泊》 | 2,342名（15,996名） |

②主催事業 参加者満足度 99%

■令和2年度実績（令和1年度実績）

- | | |
|---------|--------------|
| 1. 事業数 | 27本（50本） |
| 2. 参加者数 | 855名（3,056名） |



「自然の家に家族で泊まろう」



「サバイバルスキル講座」



「ダッヂオーブン de ハロウィンパン」



「児童養護施設との連携事業」



「ファミリー野遊び教室」



「プラネタリウム 銀河鉄道の夜」

指定管理 南房総市大房岬自然の家

新型コロナウィルス感染拡大の影響を受け、学校等の青少年の宿泊事業中止により利用者数が大幅に減少しました。このような状況においても宿泊室の定員制限や食堂の飛沫拡散防止間仕切りの設置等、出来る限りの感染拡大防止策を施した上で利用者を受け入れました。新たな試みとして家族受け入れプランを企画しました。ストレスのたまりやすい昨今の状況において、自然が豊かで安全な滞在環境の提供と質の高い自然体験プログラムの提供は、好評を得ました。今後自然体験のニーズは更に高まると考え、これらの実勢を踏まえて新たな事業展開を模索したいと考えます。

■令和2年度実績（令和1年度実績）

- | | |
|--------------|------------------------|
| 1. 利用団体数 | 183団体（206団体） |
| 2. 利用者数《延べ》 | 9,879名（26,949名） |
| 3. 宿泊者数《人/泊》 | 3,379名（15,506名） |
| 4. 主催事業 | 32事業 405名（26事業 1,002名） |



「コースティング」一般・家族対象
荒々しい断崖の美しい風景を冒険的に堪能！



「磯の生き物発見ツアー」一般・家族対象
タコやカニなど身近な海の生き物に触れて学ぶ



「初心者向けチェーンソー講習会」
風倒木の安全な処理の仕方に特化した
講習。すべて満員御礼となった。



「ウミホタル観察会」
美しい南房総の海に生息するウミホタルを
夜の港で採取して観察します。

指定管理 千葉県立大房岬自然公園

新型コロナウイルスの流行拡大により、緊急事態宣言期間中の 4/4～5/29 までビジターセンター及びキャンプ場の一般利用休止、4/25～5/26 まで公共駐車場閉鎖、1/7～3/21までキャンプ場の一般利用休止、4/4～5/29 及び 1/7～3/21 までの主催事業を中止としました。そのため、年間の来園者数やキャンプ場利用者数、主催事業の参加者数は例年に比べ大きく減少しました。

緊急事態宣言期間後は、新型コロナウイルス対応ガイドラインを作成し、公園管理、キャンプ場運営、主催事業の実施を行いました。

コロナ禍ということで、キャンプをはじめとするアウトドアへの意識の高まりを大きく感じられる一年でした。大房岬がその流れの受け皿となるべく、感染対策を徹底したうえで運営を行って参りました。

■令和2年度実績（令和1年度実績）

- | | |
|-----------------|-------------------------------|
| 1. 来園者数 | 89,933名 (146,570名) |
| 2. キャンプ場利用数 | 2,797張 4,118名 (2,905張 5,522名) |
| 3. ビジターセンター利用者数 | 7,560名 (14,475名) |
| 4. 主催事業 | 15事業 422名 (17事業 362名) |



ビジターセンター入口の表示と
手指消毒用アルコール



「キャンプ場利用の様子」
密防止の為利用定員に制限を設ける。



「主催事業 ミステリーアドベンチャー」
公園内の謎解きを楽しむイベント



「主催事業 ファミリーキャンプ教室」
感染対策を徹底したうえで実施

受託事業

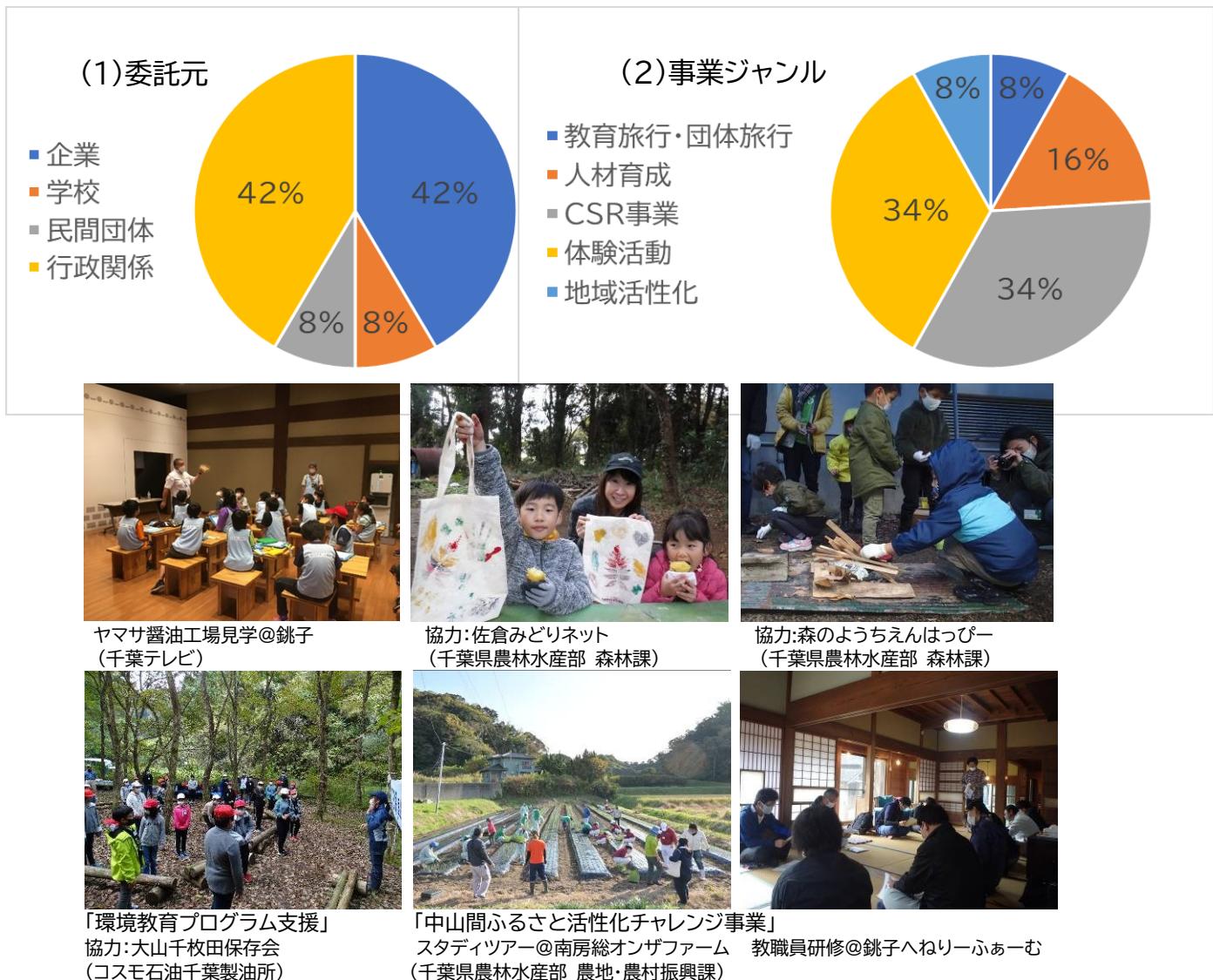
令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、予定されていた事業のうち約3分の2が中止となりました。教育旅行関係はほぼ中止となりました。実施した事業は企業や行政関係が主で、コロナ禍でも活動を止めるのではなく、今だからできる形で次に繋がることを依頼元と相談を重ね、関係者の皆さんのご協力のもと、様々な形で事業を形にすることことができました。

また、令和3年度に向け、災害教育や地域課題をテーマとした事業提案を行うとともに、新たな連携先やフィールド開拓に向けて動き出しています。

1. 令和2年度事業計画

1. 教育旅行、企業研修、CSR活動を中心とした新規事業開拓。
2. ネットワークを活かした協働・連携による事業展開の充実。
3. 企業に向けた情報発信の強化。
4. 災害復興、災害教育、地域課題をテーマとした企業、学校向け事業提案

2. 事業数 令和2年度 12件 (令和1年度 27件)



自然体験事業 千葉自主事業

スタッフの専門性、地域資源・人材・こだわりを活かした事業を展開しました。特に親子日帰りシリーズは多くのキャンセル待ちがありました。コロナ過での自然体験活動であったため、参加人数をぐっと抑えての展開となりましたが、新規参加者を迎えることができました。

今後の課題として、新しい生活様式に合わせた事業展開を考慮し、参加者や社会のニーズに合った自然体験活動の実施をしていきたいと思います。

■令和2年度実績（令和1年度実績）

- | | | | |
|---------------|--------------|---------------|-----|
| 1. 年間事業本数 | 27本 | ※17本催行中止（28本） | △1本 |
| 2. 年間稼働日数 | 49日（60日） | △11日 | |
| 3. 年間収益率 | 41.5%（43%） | △1.5% | |
| 4. 年間参加者数《延べ》 | 618名（1,026名） | △408名 | |

*新規 165名（277名）/リピーター158名（256名）/リピーター率 48%（54%）

「人気事業は…」

子ども対象：ワイルド釣りキャンプ／昆虫博士キャンプ／ちびっこ秘密基地づくり

親子対象：海辺の秘密アドベンチャー／親子カヌーツーリング



「ワイルド釣りキャンプ」



「波乗り・いかだキャンプ」



「親子カヌーツーリング」



「海辺の秘密アドベンチャー」



「サバイバルキャンプ」



「スノーあそベンチャー スキ-コース」

「今後の展開…」

スタッフの専門性を活かしたアクティビティーや地域・人材を活用した事業展開を継続していきます。子ども対象プログラムは、よりチャレンジ性を高めたコースを追加し、自然体験活動を実施いたします。

自然体験事業 ヤックス自然学校



緊急事態宣言期間は活動を自粛し、解除されていた期間は、感染症対策を講じて活動を展開して参りました。昨年度比較で年間事業本数は減りましたが、実施できた事業については、定員に近い参加者が集まりました。コロナ禍だからこそ、野外で子どもの元気を発散する場として、自然体験活動のニーズの高まりを感じるとともに、当校の運営に理解のあるリピーターの参加率が高い年となりました。

■令和2年度実績（令和1年度実績）

- | | | |
|---------------|----------------|------------------------|
| 1. 年間事業本数 | 37本 | ※コロナ禍により19本中止（59本）△22本 |
| 2. 年間稼働日数 | 90日(144日) | △54日 |
| 3. 年間收益率 | 35%(33%) | +2% |
| 4. 年間参加者数《延べ》 | 1,487名(3,851名) | △2,364名 |
- *新規 152名(857名)/リピーター 425名(960名)/リピーター率 74%(53%)

「ヤックス自然学校らしい事業」

子ども（幼児～中学生）とファミリーを対象に年間を通じて、四季折々の体験プログラムを提供しています。

また、千葉大学教育学部を中心としたキャンプリーダーの育成にも力を入れ、リーダートレーニングの実施や現場研修を積ませることで、安心安全で質の高いプログラムの提供を目指しています。



「ホームステイ～長雨編～」



「かくれ家づくり」



「岬のアドベンチャー」



「GO!GO!サーフィン体験」



「森のクリスマスキャンプ」



「第45回春のスキーキャンプ」

「人気事業…」

はじめてキャンプ:1泊2日小学生／緑の忍者キャンプ:2泊3日小学生・幼児

ホームステイ@古民家ろくすけ:1泊2日～3泊4日小学生

地域協働部 ちば・体験活動ネットワーク事業

当事業では、会員相互を図るため、千葉県の体験活動を発展させるために以下のことを実施。

1. ちばアウトドアフォーラム2020の開催

令和2年3月に新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を延期していましたが、令和3年3月に一般公募はせずに小規模ながら40名の皆様とオンラインで開催。

開催日程 令和3年3月1日(月)13時30分～15時30分

開催方法 オンライン形式(ZOOM)

参加者数 40名

開催内容 基調講演 戸高雅史氏 野外学校 Feel Our Soul 代表

『自然を舞台に無限の可能性を持った「場」への誘い』

プレゼン 「アウトドア×子ども食堂」 こがねはら子ども食堂 高橋亮

「アウトドア×芸術」 彫刻家 安部大雅

「アウトドア×幼児教育」 森のようちえんハッピー 沼倉幸子

「アウトドア×環境再生」 たてやま・海辺の鑑定団 竹内聖一

「アウトドア×養蜂ダイバーシティ」 立石貴久

「アウトドア×獣害」 南房総バーベキュー協会 沖浩志



2. 会員校まわりの実施

県内の体験活動団体の相談窓口としての役割を担い、必要に応じた対応、助言を行なう。

久保田理事長、小松事務局長、エリア担当者で、房総台風の被害状況、コロナ禍に於ける活動状況などの聞き取りを行う。会員校29校のうち22校を巡回することができた。

令和2年11月5日(木)上総エリア① 久保田、小松、香山

市津・ちはら台自然学校(東国遊育の森)→ちはら台センター→上総自然学校

令和2年11月6日(金)南房総エリア① 久保田、小松、白井

岩井民宿組合(いとうRYO)→千倉オレンジセンター

令和2年11月12日(木)上総エリア② 久保田、小松、香山

かずさアカデミアパーク→森林塾かずさの森→Live Stock

令和2年11月13日(金)上総エリア③ 久保田、小松、香山
大山千枚田保存会
令和2年11月26日(木)北総エリア① 久保田、小松、山崎
銚子海洋研究所→ぬく森くらぶ→食と農の体験工房「よもぎ館」
令和2年11月27日(金)北総エリア② 久保田、小松
東京クラシック→「私の田舎」谷当工房→ピーちゃんクラブ、さんむアクション
ミュージアム→佐倉みどりネット
令和2年12月1日(火)南房総エリア② 久保田、小松、白井
森のようちえんはっぴー→ちば南房総(道の駅とみうら枇杷俱楽部)→
たてやま・海辺の鑑定団→白浜オーシャンリゾート



地域協働部 古民家ろくすけ事業プロジェクト

1. 古民家ろくすけの企画・管理・運営ができる人材の育成

ろくすけプロジェクトにかかる職員を明確にするとともに、シニア自然大学のOBOGIによるボランティアの協力の強化に努めました。

2. 農泊施設・ホームステー施設としての利用拡大

コロナ感染拡大の中で、農泊利用はゼロ、法人主催のホームステーは大半が中止となり、わずかに10回実施されました。

3. 米作り等体験農園の普及と地域産物の加工・販売、郷土料理の普及

米作りについては、コロナ感染防止のため中止としました。ろくすけの会の協力により生産したそら豆、枝豆、大豆等の生産物、ジャム・みそ・ろくすけもち他の加工品の販売を6月より郵送及び事務所、道の駅朝市で販売を行いました。特にみそは好評を博しました。

郷土料理については県の米及び落花生の消費拡大に協力し、ホームステーの子ども及び昼間のろくすけ遊びの食事に郷土料理を提供しました。

4. フィルムコミッショングの利用促進

問い合わせ等はあったが、コロナ感染防止等のため中止となりました。

5. 生きもの・環境保全活動の実施

千葉県環境財団の助成金を活用して、ろくすけの敷地内の池に住むカエル、トウ

キヨウサンショウウオなどの生息環境の保全を図りました。

合わせて、環境保全、有害鳥獣被害防止のため、都内米作りグループ及びろくすけの会の協力で前面の棚田の除草を行いました。この棚田をキャンプその他で利用してするとともに小さな畠、ビオトープとしても活用したい要望が出てきたので棚田プロジェクトを立ち上げ、継続して利活用することを目指していきます。

6. 施設・設備の維持管理、補修の実施

10月に千葉シニア自然大学7期生の有志で、浴室の外壁の補修をしていただきました。

また、屋根用の茅場育成のため耕作放棄田を借りて茅を刈り、よい茅が育つよう整備しました。

7. 平群ツーリズム協議会と連携した地域活動

千葉県中山間ふるさと活性化チャレンジ事業に係る千葉県立流山高校の活動を支援して、岩井案内人の会等が行っているJR岩井駅構内に学校から提供された花苗を植栽しました。加工販売に使用する米、野菜等については協議会の協力で地元の食材を調達するとともにごみゼロ等地域の清掃活動に参加しました。

地域協働部 千葉シニア自然大学 第9期

千葉の里山里海の自然・地球・天文・健康づくりなどについて座学、野外活動を通じて学び、この学びを契機として、いつまでも元気で社会とつながる人づくりの活動。併せて健康長寿の社会づくりに寄与することを目標に令和1年11月から県内の公共施設や鉄道駅での募集チラシの配布、新聞での活動記事などにより受講生を募集しました。その結果、本科と専攻科(3コース)合わせて90名を超える申込みがありました。

しかしながら、折からの新型コロナウイルス感染症の蔓延の影響を受け、安心・安全の観点から令和2年度の講座は一年間、休講することとしました。

受講希望者には、この事態にあって辞退するか、次年度に継続するかの意向を確認し、予想に反し63名の方が継続を希望されました。

休講の状況の中で受講生との繋がりを持つために、本科の継続者を対象に佐倉市内の体験農園に植え付けたサツマイモの収穫体験、12月下旬には指定管理施設千葉県立君津亀山少年自然の家で正月飾りづくりのイベントを実施しました。参加者からは、それぞれ高評価を得ることが出来ました。

令和2年11月からは、令和3年度の募集をスタートさせましたが、コロナ禍にあって新規に26名の受講申込みがあり、本科・専攻科合わせて89名となりました。

令和3年度の開講については、コロナ禍やワクチン接種の状況を考慮し、5月中旬からと少し遅らせての開講としましたが、千葉シニア自然大学が目指す方向性を実現したいと考えています。

地域協働部 体験農園 in 岩名

開園7年目となった今年度は、新型コロナウイルス感染拡大対策による自粛生活の影響から、「体験農園をやっていてよかった」という声が多く聞かれた1年となりました。それぞれの区画での畠作業で体を動かし、共有スペースで他の利用者の方と情報交換で会話を交わし、皆さんのが心と体をリフレッシュできる憩いの場となつたようです。コロナ禍の状況において、体験農園が目指す地域コミュニティとしての役割を果たすことができました。

講師による野菜の特性や作付け方法の講習会は、前利用者が集まると密を避けられないため、1年目の方のみ参加とし、2年目以降の方は希望者のみ参加というスタイルで、少人数で実施しました。

また、千葉シニア自然大学が休校となつたため、例年受けていた実習サポートは中止となり、農園の特徴でもあった交流会や味噌作り、また、一般の親子を対象にした畠の楽校などの交流イベントも残念ながらすべて中止となりました。

1. 体験農園の運営

(1)面積:3,199m²

構成:体験農園(29区画)、実演圃場、研修圃場、こども農園

利用者数:29組

(2)講習会等の開催

①栽培講習会 年間21回

(新規利用者向け基礎講座2回、栽培講習会18回、メンテナンスデー1回)

②交流会 中止

③外部講師による病害虫に関する勉強会 中止

④みそ作り講座 中止

2. 親子農育イベント「畠の楽校」

新型コロナウイルス感染拡大防止対策により開催中止

3. 人材育成「千葉シニア自然大学」実習サポート

シニア自然大学が休校となつたため受入なし